

一般社団法人 日本接着歯学会

一般社団法人 日本デジタル歯科学会

共催シンポジウム

デジタルデンティストリーと接着歯学の融合
—CAD/CAM 冠とジルコニアクラウンの適用と接着—

抄 録 集

2017 年 6 月 11 日

東京医科歯科大学 歯学部特別講堂

会場のご案内

国立大学法人 東京医科歯科大学 (TMDU) お茶の水キャンパス
歯学部特別講堂 (歯科棟南 4 階)

JR 御茶ノ水駅

東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅

東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅



プログラム

開会の挨拶 一般社団法人 日本接着歯学会 理事長 矢谷博文

講演 第1部 座長 疋田一洋 先生（北海道医療大学）

13:05-13:45

デジタル臨床をサポートする接着テクノロジー

草間幸夫 先生

13:45-14:25

CAD/CAM レジン冠・ジルコニアクラウンの特性と接着

高橋英和 先生

14:25-14:45 休憩

講演 第2部 座長 佐藤 亨 先生（東京歯科大学）

14:45-15:25

CAD/CAM 冠およびジルコニアへの接着技法 ～基礎・臨床研究からの知見～

峯 篤史 先生

15:25-16:05

CAD/CAM 冠およびジルコニアへの接着技法 ～臨床例と注意点～

坪田有史 先生

16:05-16:35 総合討論

感謝状贈呈

閉会の挨拶 一般社団法人 日本デジタル歯科学会 理事長 末瀬一彦

懇親会 レストラン あるめいだ（大学内）

*参加希望でまだお申し込みでない方は、当日、シンポジウム開始前に、受付にお申し出ください。

デジタル臨床をサポートする接着テクノロジー

医療法人社団 研整会 西新宿歯科クリニック、日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 会長
草間 幸夫

デジタルで加工されたオールセラミックの修復物が、最終的に生体に接合されるには接着操作が必要であることが臨床医にとって十分に認識されているだろうか？ CAD/CAM 冠や PMMA の接着や、メタルコアと象牙質の混成サーフェス、レジンコアと象牙質の混成サーフェス、ジルコニアアバットメントなどへの接着、PMF の破折・破断面に破折片を修理接着するケース、表層がチッピングしたジルコニアフレームへの修理のためのグラスセラミックの接着、など臨床のシーンでは接着の理論と実際を熟知しなければ困難なケースが多く存在する。デジタルテクノロジーを完結させる最終のテクニックが接着であることを再確認し、接着を行う意義を改めて認識しなければならないのではないだろうか？臨床ケースを通じて供覧したい。」

略 歴

1979 年 城西歯科大学 卒業

国際デンタルアカデミーフェローシップ入所

1991 年 医療法人社団 研整会 西新宿歯科クリニック開設

2006 年 ISCD (International Society of Computerized Dentistry) CEREC trainer

2006 年 JSCAD (Japanese Society of Computer Aided Dentistry) 副会長

2007 年～ SIRONA Japan インストラクター

2008 年～ Ivoclar vivadent インストラクター

2009 年～ Ivoclar vivadent アジアン・オピニオンリーダー

2009 年～ CAMLOG インプラントシステム公認インストラクター

2012 年 JSCAD 会長

2013 年 ISCD CEREC International trainer

東京医科歯科大学歯学部 非常勤講師

日本臨床歯科 CAD/CAM 学会 (旧 JSCAD) 会長

日本デジタル歯科学会 理事

所属学会

日本口腔インプラント学会会員 専門医

日本顎咬合学会会員 認定医

日本歯科理工学会会員

CAD/CAM レジン冠・ジルコニアクラウンの特性と接着

東京医科歯科大学 大学院 医歯学総合研究科 口腔機材開発工学分野

高橋 英和

2014 年の保険改正により CAD/CAM レジン冠が保険導入されたことにより，歯科臨床に CAD/CAM を用いた歯冠修復物が広く使用されるようになっている．CAD/CAM レジン冠用の保険適応ブロックは多数市販されているが，フィラー含有量と加熱重合で製作するという縛りしかないため，その製品間の物性は大きく異なっている．ジルコニアは CAD/CAM の進歩なくしては臨床応用されなかった材料であろう．従来は光透過性が低いために前装する必要があったが，高透光性の製品が登場し，表面の着色だけで十分な審美性も得られるようになった．これらの材料の臨床使用にあたって脱離，破折を防ぐためには適切な接着操作が必要である．

略 歴

昭和 59 年 3 月 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了
昭和 62 年 4 月 昭和大学 講師（歯学部補綴学第 1 講座）
平成 6 年 4 月 東京医科歯科大学 助教授（歯科理工学第 1 講座）
平成 8 年 9 月 Guest Scientist（National Institute of Standards and Technology, USA）
平成 23 年 4 月 東京医科歯科大学 教授（歯学部口腔保健工学専攻 生体材料加工学分野）
平成 27 年 4 月 東京医科歯科大学大学院 教授（医歯学総合研究科 口腔機材開発工学分野）

所属学会

日本デジタル歯科学会：評議員，雑誌編集委員
日本歯科理工学会：理事，デンタルマテリアルシニアアドバイザー
日本補綴歯科学会：専門医・指導医
Academy of Dental Materials：Fellow
International Academy for Digital Dental Medicine：Member
ISO/TC 106 Dentistry/SC 9 Dental CAD/CAM systems Chairperson

CAD/CAM 冠およびジルコニアへの接着技法 ～基礎・臨床研究からの知見～

大阪大学 大学院 歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学分野
峯 篤史

2014 年に保険導入された CAD/CAM 冠の早期脱落が問題となっている。この問題解決のために様々な研究が行われており、我々は接着阻害因子に注目した基礎研究とデジタルデータも抽出した臨床研究を行っている。現時点において、CAD/CAM 冠治療について分かっていることと分かっていないことは何であろうか。

ジルコニアはメタルフリー治療として近年多く使用されるようになってきており、審美性の高いジルコニアの開発によって、さらにその使用頻度は高くなると考えられる。では、ジルコニア接着のコンセンサスはどのようなものであろうか。

予知性の高い接着を実現するためには、良質な被着面に適切な技法を用いることが重要である。そこで今回は、接着歯学の基礎研究ならびに臨床研究の成果が示す CAD/CAM 冠およびジルコニアへの接着技法において注意すべきポイントを再確認したい。

略 歴

平成 4 年 3 月 大阪教育大学教育学部附属高等学校天王寺校舎 卒業
平成 11 年 3 月 岡山大学歯学部歯学科 卒業
平成 15 年 3 月 岡山大学大学院歯学研究科 修了
平成 16 年 4 月 岡山大学医学部・歯学部附属病院 補綴科（クラウン・ブリッジ）助手
平成 18 年 11 月 ベルギー王国・フランドルス政府奨学生（ルーベン・カトリック大学）
平成 19 年 9 月 ルーベン・カトリック大学 ポストドクトラル・リサーチャー
平成 22 年 1 月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 インプラント再生補綴学 助教
平成 24 年 4 月 大阪大学大学院歯学研究科 クラウンブリッジ補綴学 助教

所属学会

日本接着歯学会：接着歯科治療認定医，理事長幹事，編集委員，国際交流委員，評議員
日本補綴歯科学会：専門医・指導医，英文誌（Journal of Prosthodontic Research）編集委員
日本歯科理工学会：デンタルマテリアルシニアアドバイザー，英文誌（Dental Materials Journal）編集委員
日本口腔リハビリテーション学会：認定医
日本口腔顔面痛学会：専門医
日本保存歯科学会，日本歯科審美学会，日本レーザー歯学会，日本顎関節学会，日本歯科教育学会，日本口腔インプラント学会，老年歯科学会，日本歯科東洋医学会，International Association for Dental Research，岡山歯学会，大阪大学歯学会，病院歯科介護研究会，ベルギー研究会

CAD/CAM 冠およびジルコニアへの接着技法 ～臨床例と注意点～

坪田デンタルクリニック

坪田 有史

CAD/CAM 冠やジルコニアなどによる間接修復において、接着性レジンセメントによって良好な歯科接着を獲得することが推奨されている。接着性レジンセメントの使用は、保持力ならびに辺縁封鎖性の向上、脆性材料の補強効果が主な目的である。

接着材料を有する国内外のメーカーから、コンセプトや接着性モノマーなどを背景に各種製品が提供されている。臨床医は各メーカーが示すデータとともに操作性や価格面を背景に材料を選択しているのが実状であろう。

全ての接着材料の使用経験はないが、実際の臨床例を注意点とともに供覧させていただき、ディスカッションできればと考えている。

本シンポジウムが、参加者にとって CAD/CAM 冠やジルコニアなどによる間接修復の歯科接着への理解の一助となり、その結果が治療される側の利益に繋がれば幸いである。

略 歴

昭和 58 年 3 月	慶應義塾高等学校	卒業
平成元年 3 月	鶴見大学歯学部	卒業
平成 6 年 3 月	鶴見大学大学院歯学研究科	修了
平成 6 年 4 月	鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座	助手
平成 9 年 4 月	横浜商科大学	非常勤講師
平成 12 年 4 月	早稲田医学院 歯科衛生士専門学校	非常勤講師
平成 19 年 4 月	鶴見大学歯学部歯科補綴学第二講座	助教
平成 23 年 4 月	鶴見大学歯学部ク라운ブリッジ補綴学講座	助教
平成 24 年 1 月	坪田デンタルクリニック	院長
平成 24 年 4 月	鶴見大学歯学部	臨床教授
平成 25 年 4 月	鶴見大学歯学部	非常勤講師

所属学会

日本接着歯学会：接着歯科治療認定医，理事，広報委員会委員長，
日本補綴歯科学会：専門医・指導医，
日本歯科理工学会：デンタルマテリアルシニアアドバイザー，DE 編集協力委員，
日本歯科保存学会，日本口腔インプラント学会，日本歯科審美学会，
日本顎咬合学会，慶應義塾歯科三田会，幼医会，鶴見歯学会 など